



居住貧困 実践交流シンポジウム

司会進行

登壇者紹介



雨宮処凛さん（反貧困ネットワーク）世話人

格差・貧困問題に取り組み、取材執筆、運動中。メディアなどでも積極的に発言。

韓国から



ソ ジョンファ

徐貞花さん（開かれた女性センター所長）

ソウル市西大門近くにある「開かれた女性センター」。運営目的は、貧困・精神障害・家庭暴力によって路上に出された女性ホームレスと母子家庭を保護、貧困／自立支援を通じて脱ホームレスを目指し、社会に復帰できるように手助けをすること。できる限りの居住支援をおこない自立支援をおこなっている。重視している点は「住居福祉政策」。ホームレスの「居住支援」を重視、この場所を出た後のフォローがないこと、また、ホームレスになったり、困難を抱えるようになったりもする事例が見られたことから、最長20年生活できる支援つき住宅の提供が始まった。住宅ファーストの施策への転換が進んでいる。

カン ネヨン

姜乃榮さん（住民連帯運動活動家）

ソウルの南部に位置する冠岳区は、ソウルでも代表的な都市低所得層密集地域。「冠岳区（クァナック）住民連帯」の組織化に参画し、“分かち合い”や子どもたちの居場所設置、住民自治を実践するための講座、居住の権利を保護するセンター活動を展開する。「冠岳共同行動」は、市民基盤委員会、市民政治委員会、市民協治委員会を基本に、16の市民団体によって行政や政治家に任せない市民自らによる社会変革をめざす。

日本から



稲葉剛さん（一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）

1994年より路上生活者を中心とした生活困窮者の相談・支援に取り組む。2014年、つくろい東京ファンドを設立し、空き家を活用した低所得者向け住宅支援事業に取り組んでいる。立教大学大学院特任准教授。住まいの貧困に取り組むネットワーク世話人。著書に『ハウジングファースト』（共編著、山吹書店）、『貧困の現場から社会を変える』（堀之内出版）、『生活保護から考える』（岩波新書）など。



葛西リサさん（母子世帯の居住貧困研究者・日本学術振興会研究員）

女性の多くが非正規労働に就く現在、なかでも母子世帯の半数以上が貧困状態にある。ひとり親世帯（母子、父子）、DV被害者、低所得高齢者等の住生活問題を専門とする。主な著書に、「母子世帯の居住貧困」日本経済評論社、「あたりまえの暮らしを保障する国デンマーク」ドメス出版、「これからの住まいとまち」朝倉書店ほか。居住の視点から母子世帯問題に迫り続けている。

